

平成30年度第2回食の安全・安心推進横浜会議リスクコミュニケーション検討部会

日 時	平成31年2月27日（水） 午後3時～午後5時
開催場所	関内駅前第二ビル 保健所会議室
出席者	中嶋委員、森田委員、水谷委員、松崎委員、小島委員
欠席者	今坂委員、田邊委員
開催形態	公開（傍聴者なし）
議 題	1 部会長選出 2 平成31年度 リスクコミュニケーション事業について
決定事項	1 部会長に中嶋委員が選出された。 2 リスクコミュニケーション事業について、シンポジウム形式で実施することとした。
【開会】 議 事 1	部会長の選出
○事務局	議事に入ります。初めに部会長の選出をお願いします。食の安全・安心推進横浜会議リスクコミュニケーション検討部会設置要綱第3条により、部会長は委員の互選で選出することになっております。皆様からどなたかの御推薦等がございますか。
○松崎委員	中嶋委員にお願いしたいと思います。
○事務局	中嶋委員にと御指名がありました、いかがでしょうか。
○中嶋委員	それでは、やらせていただきます。
○事務局	ありがとうございました。部会長からの御挨拶と今後の進行をよろしくお願いします。
○中嶋部会長	みなさん、よろしく申し上げます。シンポジウムとなるといつもテーマの選定が非常に難しいのですが、みなさんの御知恵をお借りして、市民の皆様にとっていいテーマが見つければいいなと思います。どうぞよろしく申し上げます。
議 事 2	平成31年度リスクコミュニケーション事業について
○中嶋部会長	早速、検討に入りたいと思います。31年度のリスクコミュニケーション事業について、事務局から提出していただきましたシンポジウムの案がございます。まず、これをもとに議論をして、さらに補足しながらシンポジウムテーマを決めていきたいと思っています。
○事務局	（事務局案説明）
○中嶋部会長	今の御説明について、さらに何か御意見ありますか。
○水谷委員	シンポジウム案のひとつにHACCPとありますが、このシンポジウムで目指しているものが、消費者の目線で食品のリスクを考えるのか、工場設備など事業者を含めた食品業界全体としてもの考えるのか、さらには、それを区別するのかわからないのかという話を伺いたいと思います。

○事務局	<p>食品業界全体の衛生レベルアップは常に課題としてあるのですが、今回お示したHACCPは、これまでの総合衛生管理製造過程のHACCPではなく、HACCPの考え方を取り入れて衛生管理をやりましょうというものです。その考え方を消費者の方々にも御理解いただき、業界全体にHACCPを導入していくことを広めたいというのが根底にあります。</p> <p>企業が衛生を担保することも重要なのですが、消費者の方々にはHACCPの考え方というのはこういうことにつながるというものを広めていきたいと思っています。</p>
○中嶋部会長	<p>ありがとうございます。基本的に、横浜市が主催するシンポジウムの性格として、一般市民が対象だと思うのです。企業に特化することは、行政が個別に業種ごとに、あるいは食品衛生協会を通じておやりになるなり、なさるべき話ではないかなと思いますので、基本的に横浜市民を対象にしたシンポジウムという認識で考えるほうがベターかと思います。</p>
○水谷委員	<p>HACCPについては、食品関係の中小企業が非常に心配されています。消費者にとっても、HACCPを知ることが身の安全とまでは言いませんが、リスクを回避するためのツールだということ言うのであれば、テーマとして選ぶ意味が出てくるかと思います。</p>
○中嶋部会長	<p>HACCPという言葉自体が一般の消費者にはなじみがありませんね。そういう意味で、普及するというのは非常に意味があることだろうとは思いますが。あと、危害度分析に基づく重要管理点の見つけ方は、実は、一般消費者の家庭でも使えるのです。ですから、HACCPの発想や考え方を取り入れて、自分自身の食生活を守る方法みたいなことを提案することはできるのではないかなと思うのです。</p> <p>食品から来る色々な危害を防御するという意味合いだと、フードディフェンスとHACCPは合体できるような気がします。フードディフェンスの1つの手段としてのHACCPとかね。</p>
○水谷委員	<p>軸足はあくまでも消費者に立っているとしつつも、普及ということ兼ねてのフードディフェンスでありHACCPであるならば、素直に受け取れますね。</p>
○中嶋部会長	<p>2番目の案に食品添加物があります。食品添加物や農薬はやってほしいテーマの上位にずっと上がっていますが、実は、食品添加物に関するシンポジウムに参加した人は、逆に、もう二度と食品添加物をやってほしいとは言わないと思うのです。なぜかという、食品添加物はこんなに緻密に色々な研究が行われていて、このような決め方で決まっているというのがわかると、もうそこから先へは行けないですよ。</p> <p>ところが、消費者の方々が食品添加物を不安に思うのは、そういう科学的なところではなくて、いわゆる観念的な、添加物には、何かまだわかってない謎があるのではないかなという、そういうところを不安に思っておられて、記入されている例が多分にあるのではないかなと推察します</p>
○松崎委員	<p>多分、消費者は、添加物と言った時点で何か余分なものを入れているのではと思っている方が多いのかなと思います。添加物はこのメンバーでは何度もやっていることですが、このアンケート結果で、初めてという人がこんなに多いのであれば繰り返してやっていくことの必要性も感じました。HACCPも非常に関心が高いところですが、添加物についても、アンケート結果を見るとやってもいいかなというふうに思いました。</p>
○小島委員	<p>私たちの普段の食生活でのリスク、例えば、小学校で育てたジャガイモを給食のときに食べたら食中毒になったということなど、私たちは普段からそういうリスクを抱えながら食生活をしているということを忘れているというか、あまり知られてないことが多いと思います。そのようなリスクとの関係を併せたほうが、皆さんがもっと身近に、そのリスクについて考えられるのではないかなと思います。</p>
○森田委員	<p>今までの話を聞いていて、食品添加物と食中毒を併せてやるといいのかなと思いました。自然のものにも毒性があるものがあり、添加物によって食中毒が抑えられているような話も一緒にできていいのではないのでしょうか。また、食品添加物をこのように紹介している冊子があるのを知</p>

	<p>らなかったで、色々な方に見ていただけたらいいと思います。</p>
○小島委員	<p>食品添加物や遺伝子組み換え食品という言葉が出てくると、もうそこで判断が固定するというのが一般的な認識だろうと思うのです。そこに新しい道をつくるというのもシンポジウムの重要なところだと思います。</p>
○中嶋部会長	<p>表示に関してはいかがでしょうか。主婦の立場から、表示というのはやはり重要だとお考えですか。</p>
○森田委員	<p>食品を買うときは結構見ますけれども、何となくこれは悪いのだろうなぐらいの感じで、よくわかっていない部分もあると思います。</p>
○松崎委員	<p>表示ということになると、原産地がどこで添加物は何を使っているか、賞味期限や消費期限あたりになるので、それぞれの意味するところがわかっていないと、ただ、何となく見ているという感じの人が多いのではないかという気がします。</p>
○中嶋部会長	<p>事務局案の4つのテーマに関して、皆さんに意見を言っていました。それぞれ、ああ、なるほどと思うところがあると思います。これ以外に、何かこういうものを市民の皆さんに情報提供したらいいのではないかというものがあればお願いします。</p>
○水谷委員	<p>発酵食品について聞いたことがあるのですが、ある期間発酵するととてもおいしくなるけれど発酵しすぎるとだめになるとか、安全に食べられる1歩手前でよりおいしいところがあるなど、もうちょっと知識的に知りたいという感じはありますね。</p>
○松崎委員	<p>発酵食品は何種類もとったほうがいいということテレビで見たことがあって、ある時、友人から、そんなに色々な種類をとって、添加物だったら不安に思うけど、発酵食品は気にしなくていいのかしらということ聞かれてはったことがありました。</p>
○中嶋部会長	<p>発酵食品は日本の食文化そのもので、従前から複合的に食べている歴史がありますが、体験的に安全だということ認識ですと来ていますよね。</p>
○水谷委員	<p>そのような発酵食品の管理の仕方や食べ方についてやるのもまたおもしろいと思いました。</p>
○中嶋部会長	<p>広範囲な食の安全というものを、もう一度見直すのもいいのかもしれません。今までの意見を総合しますと、食品安全という範囲で話題になるであろうHACCPの問題、一般的に話題になっている添加物の話、その他の安全性の議論を食品安全という広い範囲の中で市民に提供できたらいいなというのが一般的なここでの大方の意見ではないかと思います。そうすると、やり方が非常に難しくなるけれども、それは知恵を絞ってできないことはないと思うのです。</p>
○水谷委員	<p>アンケート結果ではっきりと添加物と出ていますから、他に緊急性があれば別ですけど無視はできないですよ。</p>
○松崎委員	<p>添加物の役割みたいなことがきちっとわかっているならば、表示を見たときに、添加物がいっぱい書いてあるからいけないのではなくて、安全に食べるために必要だったり、食品をつくるために必要なものだったり様々ですので、その役割や必要性をちゃんと知っていたほうが消費者として選びやすくなりますね。</p>
○中嶋部会長	<p>フードディフェンスですけど、資料の中の傘のマークのところを見ると企業のディフェンスという捉え方ですよ。でも、フードディフェンスという意味では、食べ物に係る全てにかかわるわけだから、消費者も入っていますよね。</p>

○事務局	そうですね。社会全体のフードセキュリティーの中の一部として、企業を守るためのフードディフェンスという構成になっていますね。
○中嶋部会長	それはもう、フードセーフティーという概念をちょっと超えてしまいますね。食品衛生という分野ではなくなっています。それでは、一般的にフードディフェンスというと企業というイメージですが、これを消費者論に置きかえて見たらどうでしょう。
○水谷委員	そうですね。そういうコンセプトというか、例えば、工場の上に傘をかけるのではなく、一般市民のほうに傘がかかっているような絵が出てくれば、アイデアが収束しやすいと思います。
○森田委員	フードディフェンスというイメージは皆さんわかると思うのですが、言葉が一般的じゃないというか、あまり浸透していないように思います。
○中嶋部会長	括弧書きで漢字を入れたり、サブテーマを入れるなどですね。消費者ができるフードディフェンスなどでしょうか。
○水谷委員	最近はやりの不適切動画も関係してくることなど、食品の安全性というのは色々な切り口があるという話を皆さんに知っていただくのは非常にいいことですね。
○中嶋部会長	構成については、基調講演無しでいきなりディスカッションから入るのはどうでしょう。そこにいる人たちがそれぞれの立場で自分の専門分野を10分、15分で簡単に説明した後で、市民からの質問を選んでディスカッションしていくというのはどうですか。
○事務局	そのような考え方も面白いと思います。ただ、食品防御などの新しい言葉を取り上げるなら、ある程度基礎知識を会場に伝えてからのほうがいいかと思います。
○松崎委員	最近のシンポジウムで参加者の満足度が高いのは、講演の内容よりも、実際のテーマに沿った話し合いが十分に聞けたところだと思います。そういうことであれば、講演は極力短く、でも、必要なことは情報提供として話していただきたいですね。
○中嶋部会長	資料やスライドの説明は必要だと思います。今回はそういう方向で、ディスカッションと意見交換を中心に行ってみましょうか。具体的に取り上げるテーマは、添加物と食中毒ですね。添加物は安全性の説明と利用方法と表示が絡んでくると思います。あとは食中毒ですが、食中毒というと、みんなそんなことはもう知ってますといった感じにならないでしょうか。
○森田委員	HACCPについてですが、企業は今大変頑張っているらしいのですが、家庭の主婦はあまりぴんと来ていません。ですから、ここはしっかりとわかりやすく、身近な問題としてやっていただけたらいいかなと思います。
○中嶋部会長	HACCPは、物をつくる過程で何が危険なのかというポイントと、そのポイントをどのように管理するかという問題があります。重要管理点というのですが、そこが何なのかということをもっとわかりやすく伝えていきたいですね。家庭での食中毒対策でいうと、原材料の段階ですと、ジャガイモの芽がついているものはちゃんととりましょうとか、食品表示でいうと、表示をしっかり見ることで、遺伝子組み換え食品や食物アレルギー対策ができますという、消費者ができるフードディフェンスでどうでしょう。
○水谷委員	結構私たちの身近にあるということを理解してもらえれば、HACCPも身近な感じにとってもらえて、普及もやりやすくなるかなと思いますね。
○中嶋部会長	今回は、そんな方向でやろうという皆さんの御意見なのですが、事務局ではいかがでしょう。あと準備すべきことは何ですか。

○事務局	今までのお話ですが、タイトルをつけるとしたら「食品防御って何、私たちにできること」「我が家のフードディフェンス」といったものでしょうか。内容として、食品添加物、食品表示、HACCPの考え方の家庭への応用、身近な食中毒予防といったものを入れ込み、最終的には自分たち家族の食事を考える上での判断基準を皆さんに勉強していってもらえるようなイメージにしたいのですが、いかがでしょうか。
○中嶋部会長	完璧じゃないですか。
○松崎委員	私たちにできることというよりも、我が家でできることですね。とても身近で、特に、我が家というのは非常にいいなと思いました。他人事ではないぞということです。
○事務局	自分たちの食に対する考え方を、どう自分で整理してもらおうかということになると思います。あとは、開催時期、時間、意見交換会のコーディネーターはどなたかということをお検討ください。時期については、一応今年と同じ時期である11月16日の土曜日を確認してあります。前回のお話の中で、若い方向けに時間帯を変えてみたらという御提案がありましたので、お諮りする次第です。
○森田委員	ヘルスメイトさんに御参加していただいて、広めていただくことはとても意味のあることだと思うのですが、来場者が毎回ヘルスメイトさんばかりなのが気になります。少しずつ変えていかなければいけないのかなと思うのですけれどもいかがでしょうか。子育て世代や、小学生の母親の友人に聞いてみたら、聞きたいお母さんはいっぱいいるけれども、時間を割いていくのが大変だということは言っていました。
○中嶋部会長	それは平日、土日は関係ないのでしょうか。
○森田委員	平日の夜がいいのではないかと試してみたいのですが、それはそれで子供を預けているから大変だと。わざわざ土日というのもつらいようなのですが。
○中嶋部会長	今までやってきたのは土日の午前中ですね。市のほうにそれについて意見が来ていませんか。
○事務局	アンケート3ページ目の設問4と5で、開催時期、開催時間を聞いていますけれど、ここに来てくださる方に聞いているので、参加しやすい、ちょうどいいという意見が多くありますね。
○森田委員	午前中ゆっくり家事をして、午後参加してみたいという人がいるかもしれないから、今度は午後やってみるというのも手かもしれないですね。
○中嶋部会長	午後にやる場合、1時からになりますか。
○事務局	1時受付開始で1時半から、もうちょっと遅くて1時半受付開始で2時から、トータルで2時間半ぐらいというところかなと思います。夕方は早めに帰りたいという意見もあるでしょうから長くても3時間ですね。
○中嶋部会長	1時半から2時間半で4時終わりという形でしょうか。
○松崎委員	それぐらいがいいかもしれないですね。11月ですからね。
○事務局	午後でよろしければ午後も企画できます。
○中嶋部会長	市としては問題ないですか。

○事務局	大丈夫です。
○中嶋部会長	ではやってみましょうか。今回は午後開催ということで。
○森田委員	SNSでの広報はツイッターだけですか。フェイスブックやインスタグラムなどこれから増やす予定はないですか。
○事務局	広報の手法については、今後検討させていただきます。 あとはコーディネーターの人選をお願いできればと思います。
○中嶋部会長	松崎委員は以前分科会でよく司会をやられていましたね。
○森田委員	松崎委員にやっていただきたいです。
○松崎委員	私であれば、やらさせていただきます。
○森田委員	ありがとうございます。
○中嶋部会長	私もフォローします。
○松崎委員	ぜひお願いします。
○中嶋部会長	あとはパネリストの人選ですね。これはおいおい次回の部会で決めれば良いでしょうか。
○事務局	はい。ある程度、講師の方、パネリストの方の候補をまた準備しておきます。
○松崎委員	テーマが我が家でできることなので、パネリストの中に、どなたか消費者代表として出ていただきたいです。
○小島委員	森田さん、ぜひお願いします。
○森田委員	では、私がやらさせていただきます。
○中嶋部会長	それでは、ある程度まとまってきましたので、あとは次回の3月の本会議で報告をして、委員の方の意見を聞いて、また修正をしていくということで進めたいと思います。 事務局から何かありますか。
○事務局	次回本会議は、3月14日の15時からこちらの会場で行いますので御出席をお願いします。 その時に、今回検討した内容を案としてお示しできるかと思います。
○中嶋部会長	よろしくをお願いします。 今日の議事はこれで終了しました。皆さん、どうも御協力ありがとうございました。
資 料	1 食の安全・安心推進横浜会議委員名簿 2 平成31(2019)年度 食の安全を考えるシンポジウム(案)
特記事項	特記事項 なし